



撮影・菅野靖

1日付で、「マチベン」から最高裁判所判事に就任した

顔

山浦 善樹さん
やまうら よしき
65

東京の山手線沿

長野県上田市出身。197

いにあつた、廃屋のようなど
リヤード場が忘れられない。

バブルの頃、立ち退きを求
められた高齢の女性経営者の
相談に乗った。彼女は最初本
心を見せなかつたが、3か月

たつて、ようやく打ち明けた。
「戦地に出た男子学生からキ
ューを託され、帰りを待つて
いる」と。

はつとした。女性は話した
ことで吹っ切れたのか、間も
なく退去を決めた。「弁護士
は型にはまつた解決方法を考
えがちだが、当事者の心情や
背景を知ることが大切なこと
もある」。そう思った。

山本周五郎「赤ひげ診療譚」
が愛読書という。江戸庶民を
支えた医師を手本に、年間8
000件の裁判が持ち込まれ
(街の弁護士)一筋で活動し
てきた。

(社会部 児玉浩太郎)